

体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

文部科学省
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

coc-nbu.jp

September 2016 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

故郷を愛する心を 未来を担う子どもたちへ。

佐賀県自然体験活動支援「Kids Smile Project」。
「さがのせき海の体験塾」密着レポート!



No. 10



▲地元住みか知らないビーチで海水浴。メンバーは時間を確認しながら、子どもたちに水分補給と体調確認を行った。

大学生のポテンシャルで 地域の課題を解決しよう。

自 然豊かな環境が残る佐賀関地区の方々が、自らの住む町の素晴らしさを若い世代にも実感してもらい、故郷を愛する心や友だちと協力して生きていく心を育んでほしいという想いから設立した「ウミネコの会」。稲作や釣りなどのさまざまな分野で、地域の子どもの良き先生となり長きにわたり活動を続けてきた。しかしながらメンバーの高齢化に伴い、参加者である子どもたちの活動をサポートすることが難しくなり、安全管理体制の再整備が必要不可欠に。そこでウミネコの会より、NBU日本文理大学に活動協力の依頼があり、佐賀関自然体験活動支援プロジェクト「Kids Smile Project」が始動。ウミネコの会の皆さんの豊富な知識や経験と、学生の新しい



▲炊飯器ではなく、飯盒を使って米を炊く。初めての学生も多く悪戦苦闘。

アイデアや行動力を融合させ、これまで田植え経験や、収穫したお米を使っの餅つき大会などの活動を通して、佐賀関地区の皆さんとコミュニケーションを深めてきた。そして今夏、ウミネコの会の恒例行事、3泊4日にわたる「さかのせき海の体験塾」が学生の全面サポートのもと開催された。

子どもが考え、動くために 頼れるサポーターになる。

燦 々と輝く太陽の下、佐賀関の幼稚園跡を宿泊拠点にした体験塾がスタート。はじめにウミネコの会から学生へ伝えられたことは、「地元の子どもたちには、自分たちがやりたいことを考え、行動することを学んでほしい」。学生は相談役やサポーターとして子どもたちを支えてほしいというものであった。

その想いに応え、昼食や夕食は、各班ごとに子どもたちがメニューを考えて野外炊飯にチャレンジ。班のメンバーは4歳から小学校高学年まで。調理は包丁や火などを使うため、学生は細心の注意を払いながら彼らを見守る。「できないよ…」と弱音を吐く子どもにも、代わりにやってあげるのではなく、どうすればいいのかを伝え、一緒になって取

佐賀関の子どもたちのために… 大学生だからできること。

3泊4日「さかのせき海の体験塾」をNBU生が全面サポート!

NBU佐賀関自然体験活動支援プロジェクト「Kids Smile Project」。彼らにとって夏のビッグイベント、「さかのせき海の体験塾」の日がやってきた。佐賀関地区で農業体験や漁業体験などを通じ、子どもたちの健全育成を目的に運営されている「ウミネコの会」と協働で開催する3泊4日プログラムに込められた、学生たちの熱き想いを密着レポートでお届けします。



▲班のみんなで決めたメニューをつくり、全員で「いただきます!」。それぞれの班ごとにメニューもユニーク。

り組む。

また、ウミネコの会の方々が大切に伝えてきた地元を愛する気持ちを味わってほしいと、郷土の祭りにも参加。衣装や神輿を子どもたちと手作りして町内を練り歩く。海水浴や釣りの時間では「海岸に咲く花を探そう」、「黒い石を見つけよう」といったテーマを設け、楽しみながら学ぶ。子どもたちが自分の意志で参加し、心から楽しむ中で何かを感じ、身につけてほしい。炎天下の中でも、笑顔を絶やさず、大きな声で子どもたちを元気づける学生の姿が印象的だった。



▲ドラム缶風呂の火も自分たちで起こす。子どもたちは戸惑いながらも、興味津々。

NBU生だからできる 個性的な体験プログラム。

今 回の体験塾のプログラムを決めるミーティングで話し合われたのは、学生である自分たちだからこそできること。そのひとつが、展望・天文台施設「関崎海星館」がある佐賀関にちなんだ天体教室。航空宇宙工学科の学生が中心となり、クイズを取り入れたり、普段みんなが使っているもので大きさや重さを表したりしながら、宇宙空間や惑星について説明していく。それでも話だけでは飽きてしまうだろうと、高学年には望遠鏡を、低学年・未就学児にはプラネタリウムをつくる「ものづくりの時間」を取り入れた。その夜、完成したばかりの望遠鏡を覗いて星空観察を行った子どもたちが「見えるよ!」「キレイ!」とはしゃぐ声を聞いて、学生も思わず笑顔がこぼれる。



▲揃いの衣装をまとい地元の夏祭りに参加。地元の皆さんも温かい眼差しで見守ってくれる。



▲エイサーの練習風景。ひとつひとつの動作を、細かく分けながら教えていく。

もうひとつの取り組みは沖縄の伝統的な踊り「エイサー」体験。プロジェクトメンバーに沖縄県出身者が多く在籍していたことがきっかけに生まれた企画だ。まず最初にエイサー発祥の地、沖縄のことを子どもたちに説明。その後、踊りで使う「パーランカー」という小さな太鼓づくりなどを行った。今回、子どもたちと一緒にチャレンジしたのは「唐船ドーイ」という曲。4日間という限られた時間で振り付けを覚えてもらえるのだろうか…そんな不安を胸に、教え方や各パートの役割についてミーティングを重ねていたメンバーたち。その成果はもちろんだが、沖縄出身の学生が「大人でもこんなにすぐにマスターできないのに…」と驚くほどの子どもたちのセンスの良さにより、見事な仕上がりをみせる。

最終日、保護者の前で、練習を重ねたエイサーを披露。3泊4日をともに過ごした仲間と



▲天体教室で手づくりした望遠鏡で夏の星空を観察。学生が教えた星座を見つけ喜ぶ子どもたち。



▲すべてのプログラムを終えての記念写真。子どもたちも地域の方も、そして学生も、みんな仲間!

の絆と心の成長を表現したかのような踊りに、観客の皆さんから大きな拍手が贈られた。

食事を一緒につくり、ドラム缶風呂の火を起こし、子どもたちが眠りにつくまでそばにいる。その後、メンバー全員で1日の反省と明日の確認を行う。朝6時に起床し、就寝は深夜というハードなスケジュールをこなした学生たち。だが、閉塾式を迎えたメンバーの顔には疲れよりも充実感が漂っていた。「厳しさやメリハリをつけながら、子どもたちに接することは大切です。でも…。真っ黒に日焼けしたメンバーの一人は最後にこう言った。「自分たちが楽しいと感じたとき、ふと子どもたちを見ると、同じように楽しそうだった。それがすごく嬉しかった」。たくさんの思い出をつくった夏が終わり、次の季節がやってくる。「Kids Smile Project」と佐賀関の皆さんとの交流は、これからも続いてゆく。

学生たちの活躍は、
NBUのCOC特設サイトをチェック!

nbu coc

検索

キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、
教職員、地域の皆さんにインタビュー。

10



工学部
航空宇宙工学科2年

山本 葵

Q. 「さがのせき海の体験塾」で
目指したものは？

A. 私は、チーム全体をまとめる役割でしたので、一点のみに目を配るのではなく、全体を見ることを心がけました。困っている子がいたらもちろんサポートしますが、そのことに集中しすぎて、全体進行がおろそかにならないように気をつけました。1日の終わりにウミネコの会の皆さんとメンバーで改善点について、議論を重ね、翌日には改善できるように努めました。先輩が後輩に、子どもたちの指導方法や接し方をアドバイスをしているのを見て、メンバー全員が体験塾をより良いものにしたいという気持ちを強く感じることができました。

Q. 3泊4日の子どもたちとの共同生活を
通して学んだことは？

A. 子どもたちと同じ時間を過ごす中で、“相手の話を聞く”ことの大切さを再確認しました。

4歳の子に対する接し方と12歳の子に対する接し方に違いはありますが、性別や年代が違ってても“相手の話を理解してから自分の意見を相手に伝える”ことに違いはありません。自分の思いを伝える前に、まず相手の気持ちを聞いてみる。それが子どもたちや保護者の皆さんとのコミュニケーションにつながったと思います。最終日にたくさんの方から「ありがとう」と、感謝の言葉をいただいたときは、とても嬉しかったですね。

and more...



PICK UP! COCプロジェクト

2016.08.01 **若者が感じる祭りの醍醐味**

川の港まつりin犬飼

屋台の電球をつけたり、食材を運んだり、氷を入れる大きなバケツを担いで坂道を上り下りする学生たちの姿を目の当たりにした地域の方々から、「これって、単位は出るの?」という質問。自主的な活動だと答えると、しばらく、絶句。ようやく口をついて出たのは「えらいね、頭が下がるわ」という言葉。何の見返りも期待せず、まるでサウナに入っているかのように噴き出てくる汗をぬぐいながら、黙々と祭りの準備を進める学生。

人口減少と少子高齢化の地域で、効率を重視し、数値だけを追いかければ、地域の行

事は切り捨てられてしまう。しかし、人間は数字だけで割り切れるものではないし、損得勘定だけで動けるものでないということを、学生たちが示してくれている。

夜空の万華鏡と水に映る光の輪、そして、風が運ぶ火薬の香り。打ちあがる音と歓声のハーモニー。仲間の体温を感じる。五感をフル活用して花火を楽しめる。これが、犬飼の「川の港まつり」の醍醐味だ!

まだまだあります!
大分県内をステージに進行中の
プロジェクトが盛りだくさん。

- 初夏のエネルギーで育つ“感じる心”
- 現代版 あぜつくり
- 初夏の風物詩「どんこ釣り大会」

etc...



くわしくはNBUのCOC特設サイト **coc-nbu.jp** へ